

第4回小金井市市民協働のあり方等起草委員会次第

- 1 日 時 平成23年12月6日（火）午後7時～9時
- 2 場 所 前原暫定集会施設A会議室
- 3 議 題
 - (1) 第1回市民懇談会の報告について
 - (2) 起草について
 - (3) その他
- 4 提出資料
 - (1) 第1回市民懇談会グループ発表・質疑応答要旨（起草4-1）
 - (2) 第1回市民懇談会の各グループ関心事項（写し）（起草4-2）

第1回市民懇談会グループ発表・質疑応答要旨

【第1グループ・討論テーマ「協働するにあたっての関心事項」】

- 1 最初、どんなことに関心があるかについて話し合った。ごみ問題、障害者問題、教育、保育、図書館、学童保育、児童館、自治会のあり方に関心があるとのことだった。
- 2 市と協働するためには組織やネットワークが必要だ、そしてどのようなことをすべきかについて話し合った。
- 3 窓口が一本化されていないのでどこに相談したらよいか分からないということから、必要な情報をどのようにして集めればよいか、だれが必要な調査をするのか、計画や協働の考え方を作っていくのかという話になった。
- 4 最後に、行政の役割について考えてみた。条例を作ることについても考えてみた。また、市民参加ということで委員会や審議会が進められているが、さらに参加しやすいような仕組みを行政で用意してもらいたい。行政により協働のあり方をマニュアル化、文書化してほしいという話があった。
- 5 協働がうまく行っているか市民がチェックする、評価することが大事だ。その結果などを行政によりきちんと記録し、公開してもらいたいと思う。調査とかチェックは行政まかせではいけない。

【第2グループ・討論テーマ「協働するにあたっての関心事項」】

- 1 第1グループと共通部分もかなりある。ネットワークづくりのことも出た。行政側の問題としては、議会の関係や予算措置はどうするのか、市民側の問題としては、もう少し自立した意識が必要ではないか、協働に対する意識の向上が必要ではないかという意見が出た。
- 2 担当職員が変わったら考え方が変わるということは困るので、行政はどの職員がやっても同じ取り扱いができるような仕組みが必要だ。
- 3 他のNPO法人とも協働したいので、結びつけてもらいたいという話も出た。中間支援センターの機能の問題でもあると思った。

4 そのほか、自由に話し合える居場所づくりをしたいとか、そのようなときどこに相談したらよいか、また、同じような団体と一緒にもしろいことをしようとしたときどこに相談したらよいか、などが出た。やはり中間支援組織のようなものが求められていると思った。

【第3グループ・討論テーマ「協働するにあたっての関心事項」】

次のような意見が出され、議論した。

- 1 まず、制度の整備が必要ではないか。
- 2 方向性としては、市民のニーズに合わせて協働事業への転換が必要ではないか。これには、市民と行政が新たなまちづくりに向けて協働することがポイントだ。
- 3 協働に向けて人材の発掘と養成が大事だ。
- 4 行政に、NPO等に対して財政支援をお願いしたい。
- 5 町内会等のコミュニティ組織の充実・支援が重要ではないか。
- 6 協働事業の提案制度、新しい契約制度、条例整備、推進計画づくりが必要だ。
- 7 市民、行政、中間支援組織が三位一体で協働を推進することが必要だ。

【第4グループ・討論テーマ「協働するにあたっての関心事項」】

1 協働を進めるのは当たり前ということで議論が進んでいるが、本当にそうなのかという疑問が出た。そこで、「そもそも協働って何」ということから出発した。与えられた4つのテーマのうち、2, 3, 4は具体的なものなので、そこに行く前の議論から始めることになった。

- 2 関心があるのは、地域の状況や子どもの状況、高齢者の見守りシステムなどが挙げられた。
- 3 結局、行政の意識、市民の意識が変わらなければいけない。そうなるはず

いぶん違う。そのための研修はどう行われているか。ただ単に研修が必要というだけでは、どうしようもないという話が出た。

4 協働をしようとしたが、行政の厚い壁に阻まれた事例の話が出た。行政の決定機関が違うところにあったりして、前の話がほごになってしまったということだ。1グループでも発表していたが、担当者が替わることで方向性が変わったりして非常にやりにくい。担当者が短期間で替わるという行政の仕組みが変わる必要があるという話になった。いろいろ意見が出たが、しっかり協働の方向を向いて議論できたということにはなった。

5 協働の失敗事例もうまく行った事例も含めて、少人数でもいいから協働のことが話し合える場があれば、少しずつ変わっていくかもしれない。仕組みを変えることがやはり必要だ。

【質疑応答】

【問1】 他市は5年以上前からセンターを立ち上げているところがあるが、機能的には最終段階まで達していない。小金井市はセンターの立ち上げが遅いのではないか。

【問2】 行政が協働の研修をやっているとは聞くが、具体的にどのようなことをしているのか。革命的に変わるようなことをやっているか。

【事務局】 職員向けの協働推進研修を年1回開催している。また、今年4月、初めて新入職員を対象に協働の推進についての研修を開催した。また、市民と行政が相互理解を深めていく必要がある。今後とも職員の協働に対する意識付けを全庁的に図っていける取り組みを模索している。

【問3】 協働の担当課がコミュニティ文化課で、どちらかという市民を向いている課だ。全庁にかかわる問題なので、強力なリーダーシップを持ってやれる部署に置くことが必要ではないか。

【問4】 どこの部署でやるかということではなくて、行政にセクショナリズムがあるとまずい。行政、社会福祉協議会、ボランティアセンター、市民、NPOなどいろいろの方が、財源、能力すなわち人、物資、(活動)場所、時間な

どを分担することが重要ではないか。

【問5】 新たな仕組みを作る場合、最も重要なのは契約のあり方だと思う。意識改革の話があったが、意識改革だけではだめだと思う。お金の使い方まで市民や行政の中で一定のルールを作るような踏み込んだ答申を出していただきたい。そのルールづくりについては、コミュニティ文化課だけではなく、例えば管材課など発注側の部署も入って総合的な仕組み作りをしてほしい。

【委員長】

1 小金井市民の底力を改めて感じた。協働は単に行政のお手伝いをしているのではなく、市民が自分たちの町を主体的にどう作っていくかだと思う。

2 私たちが好き勝手にやっているから行政はバックアップしろというのではなく、地域でどのようにして公共的、公益的なものを作っていくかである。行政だけに任せておくと決まったことしかやらず、硬直化していくのをずっと見てきた。

3 そのため、市民が主体的に動いていく部分を制度として、仕組みとしてどう作るかが、協働のあり方として重要だ。その仕組みを作るにはどうしたらよいかオープンに議論していくことが必要だ。記録化もその一つだ。

4 これまでは自分たちのグループを含めて行政と1対1でやってきた部分が多い。これからは、いろいろな団体と連携しながらオープンな中でやっていく。横のつながりをどれだけ作れるかということが協働のポイントになる。自分たちだけが行政と協働しているからよかったねということではなく、いろいろな団体と得意な分野で手を組んでやっていくことだ。

5 自分たちが主体的に動くようになると、動ける人材をどう育てていくか、どう発掘するかが大事になる。

6 質問にもあったが、行政職員が異動してしまうと、ゼロからやらなければならないという痛みを多くみている。記録化しそれをオープンにしたり、だれが担当しても変わらないようにマニュアル化しておく必要がある。

7 研修について質問があり、課長から一定の話があったが、協働は単に座学で学ぶのではなく、職員をNPO等の実際の活動現場に送り込むことで効果が

出る。ある市では、1年間NPOの現場に送り込んでいるところもある。市に復帰したら、企画など市の中核に配属することが必要だ。

8 協働の担当はコミュニティ文化課でよいかという質問があったが、検討委員会では権限を持った中核に専管部署にどう作るかについても議論している。協働については庁内調整をしなければならないので、単に1セクションということでは難しい部分もある。場合によっては、コミュニティ文化課にそれだけの権限を持たせることも必要かもしれない。

9 質問にもあったが、条例を作り、その中に契約の仕組みをどのように入れていくかについては、検討委員会でも相当議論した。そして、仕様書を一緒に作っていくことができないかを含めて、本日いただいた意見を大事にしていきたい。

10 行政の専担課の問題とともに、市民と行政をコーディネートしていく部署として、センターなどの中間支援組織に期待するものは大きい。指摘のとおり小金井にはまだセンターがなく遅れているが、遅れている地域はたくさんある。ただ、全国的にみてもセンターの多くが行政の委託の縛りの中でやっているの、ギスギスし始めているのも事実だ。契約のあり方、センターのあり方を含めて一気に進めていかないと、解決しないと思う。

11 今日いただいた意見を、検討委員会の中でいろいろな角度から検討したい。